

資 料 提 供	
令和元年9月28日	
担当課 (担当者)	鳥取市保健所 健康支援課 (山根・加賀田)
電 話	0857 - 22 - 5694 (6041)

デング熱患者の発生

9月28日、鳥取市保健所管内の医療機関から、蚊媒介感染症であるデング熱患者の発生届出がありましたのでお知らせします。

また、令和元年の本症の県内発生は2例目です。

項 目	内 容	
患 者	20歳代(女性)	
	住所地	鳥取市
経 過	9月11日～9月19日 カンボジア滞在 9月19日 帰国 9月21日 発熱(39℃台)、嘔気が出現 9月26日 倦怠感が強まり、全身に発疹が出現 9月28日 鳥取市内の医療機関を受診 県衛生環境研究所で検査した結果、デング熱陽性患者は、解熱しており、現在自宅療養中	

※ 患者のプライバシーの確保に十分な配慮をお願いします。

報道機関各位におかれましては、以下の啓発についてよろしくをお願いします。

《デング熱流行地域へ渡航される方へ》

- 流行地域では、長袖、長ズボン等の着用や、蚊の忌避剤の使用など、蚊に刺されないように注意してください。(流行地：東南アジア、南アジア、中南米等)
- 国内での感染防止のため、症状の有無にかかわらず(感染していても症状がでない場合もあります。)、帰国後少なくとも2週間程度は、蚊の忌避剤を使用するなど、蚊に刺されないように注意してください。
- 帰国後、発熱、発疹等の症状が出た場合は、速やかに医療機関を受診してください。

《蚊の対策について》

- 蚊媒介感染症の国内での発生予防とまん延防止ため、皆様一人一人の御協力をお願いします。
 - ・蚊の多い場所に行くときは、長袖、長ズボン等を着用、虫除けスプレーを使用しましょう。
 - ・やぶ、草むらをなくしましょう。(草刈り、草取りなど)
 - ・不要なものは片付けて、たまり水をなくしましょう。(幼虫対策：媒介蚊であるヒトスジシマカは、小さな水たまりなどに産卵します。)

〈参考事項〉

1 デング熱の発生状況

(令和元年9月28日現在。ただし、令和元年の全国は9月15日現在の速報値。)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全国	249	341	293	342	245	201	311
鳥取県	0	0	0	1	0	1	2

2 デング熱について

- ウイルスを保有した蚊（ネッタイシマカやヒトスジシマカ）に吸血された際に感染し、人から人への直接的な感染はありません。
- 人がデングウイルスに感染してもデング熱を発症する頻度は10～50%とのことです。
- 潜伏期間は2～14日（多くは3～7日）です。
- 突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、皮疹などが見られ、一部は重症化してショック症状や出血傾向を呈し放置すれば、致死率は10～20%に達しますが、適切な治療を行うことで致死率は1%未満に減少できます。
- 特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。
- 蚊は冬を越えて生息できず、また卵を介してデングウイルスが次世代の蚊に伝わることも報告されたことはありません。